

目 次

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容	p.2
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性	p.2
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	p.2-3

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

全国規模の短大離れ、及び加速しつつある 18 歳人口の減少により、本学園も影響を大きく受けており、この数年収容定員を満たすことが困難になりつつある。

そのため、保育科の入学定員を 240 人から 200 人、収容定員を 480 人から 400 人へ、英語コミュニケーション学科の入学定員を 80 人から 50 人、収容定員を 160 人から 100 人へ、現代教養学科の入学定員を 80 人から 50 人へ、収容定員を 160 人から 100 人へと純減を行う。

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

英語コミュニケーション学科は、短大離れと新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度から収容定員割れとなった。現代教養学科についても恒常的な定員未充足であり、収容定員を減ずることは、短期大学としての学園の高等教育部門の経営の改善にも資するものであり、学園の高等教育部門全体の基盤整備へとつなげる。

また本学園の短大を支えていた保育科も保育職・教育職希望者の減少も相まって令和 4 年度に収容定員割れとなり、保育科の収容定員を減らすことで、本学園が設置する桜花学園大学保育学部との競合を避け経営の効率化を図る。【資料 1】

18 歳人口は 2023 年は 112 万人となり今後も減少が継続するとされ、四大志向への高まりと短大離れが加速度的に進行する中、募集停止を発表する短期大学が全国で以前より見受けられるようになり、短期大学運営の厳しさを痛感している。収容定員の変更は定員未充足の現状を改善し、教育の質を担保・維持する上で必要不可欠な経営計画であるといえる。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

（イ）教育方法及び履修指導の方法の変更内容

保育科・英語コミュニケーション学科・現代教養学科ともに（ア）学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程、（イ）教育方法及び履修指導方法の変更はありません。

また卒業に必要な取得単位数と単位授与についても変更はなく、基礎教育科目として共通科目を設け履修ができるようになっている。共通科目については、時代のニーズに合った教養を身につけられるよう開講科目の見直しを行い、教育課程の改善を継続して行っていく。

（ウ）教員組織の変更内容

保育科・英語コミュニケーション学科・現代教養学科ともに教員組織の変更は予定していない。2023 年 5 月 1 日時点で保育科 18 名、英語コミュニケーション学科 8 名、現代

教養学科 6 名の専任教員が在籍しているが、今回の収容定員の変更に伴う教員数の削減はしない。これは学生数に応じた少人数教育の充実化を図るためであり、密度の濃い教育内容を展開することによって、学生の教育満足度の向上に資するものである。

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

名古屋短期大学が設置する 3 学科ともに教育に必要な施設・設備は整備されており、変更は予定していない。

今年から 8 号館の運用が新たに開始され、短大と大学が共用することで教育環境が向上しつつある。また 2026 年桜花学園大学に開設予定の「情報科学部 教育データサイエンス学科（仮称）」設置に伴う新施設の建設を計画しており、今後一層充実したものになると考えている。